中日新聞

2017年（平成29年）3月9日（木曜日）

被災家屋 修繕お手伝い

三島市のＮＰＯ法人「グラウンドワーク（ＧＷ）三島」専務理事の渡辺豊博さん(66)らが、災害復旧職人派遣協会（山梨県大月市）を設立し、被災地に建築関係の職人を派遣する仕組みづくりを進めている。被災者が速やかに自宅で日常生活が送られるよう支援するのが狙い。渡辺さんによると、全国でも珍しい試みという。（佐久間博康）

速やかに生活支援 建築職人を派遣

三島のNPOが仕組みづくり

被災した家屋の屋根を補修する職人＝熊本県大津町で（グラウンドワーク三島提供）

協会は、渡辺さんと大月市の屋根施工会社「日本ステンレス工業」の石岡博実会長が一月二十六日に設立した。二人は昨年の熊本地震や鳥取地震の被災地で復興支援活動で協力し意気投合した。協会では石岡会長が代表理事、渡辺さんが理事を務める。

渡辺さんによると、被災地では救援物資としてブルーシートなどの資材は届くものの、活用できる職人が少なく家屋を保護する応急処置がなかなか行われない。その結果、雨漏りするようになり、住民が転居してしまうケースが多いという。こうした問題を解決するため、職人派遣の仕組みをつくることにした。

募集する職人は、建築関係の仕事を経験したことがある人で、三日以上の支援が可能なことなどが条件。職人は一人親方や小規模事業者が多く、経済的な負担が障害となっている点を考慮し、一日八千～一万五千円の手当を支給する。活動を支えるために、一口一万円の寄付も募る。

静岡県内の事務局はＧＷ三島、山梨県内は日本ステンレス工業が担当し、百人以上の登録を目指す。山梨県では既に約五十の個人・団体が登録しているという。

渡辺さんは「災害時に日本のどこからでも駆けつけられる体制をつくりたい。静岡、山梨の両県で災害が起きたときの備えにもなる」と話す。問い合わせは、ＧＷ三島＝電０５５（９８３）０１３６＝へ。